

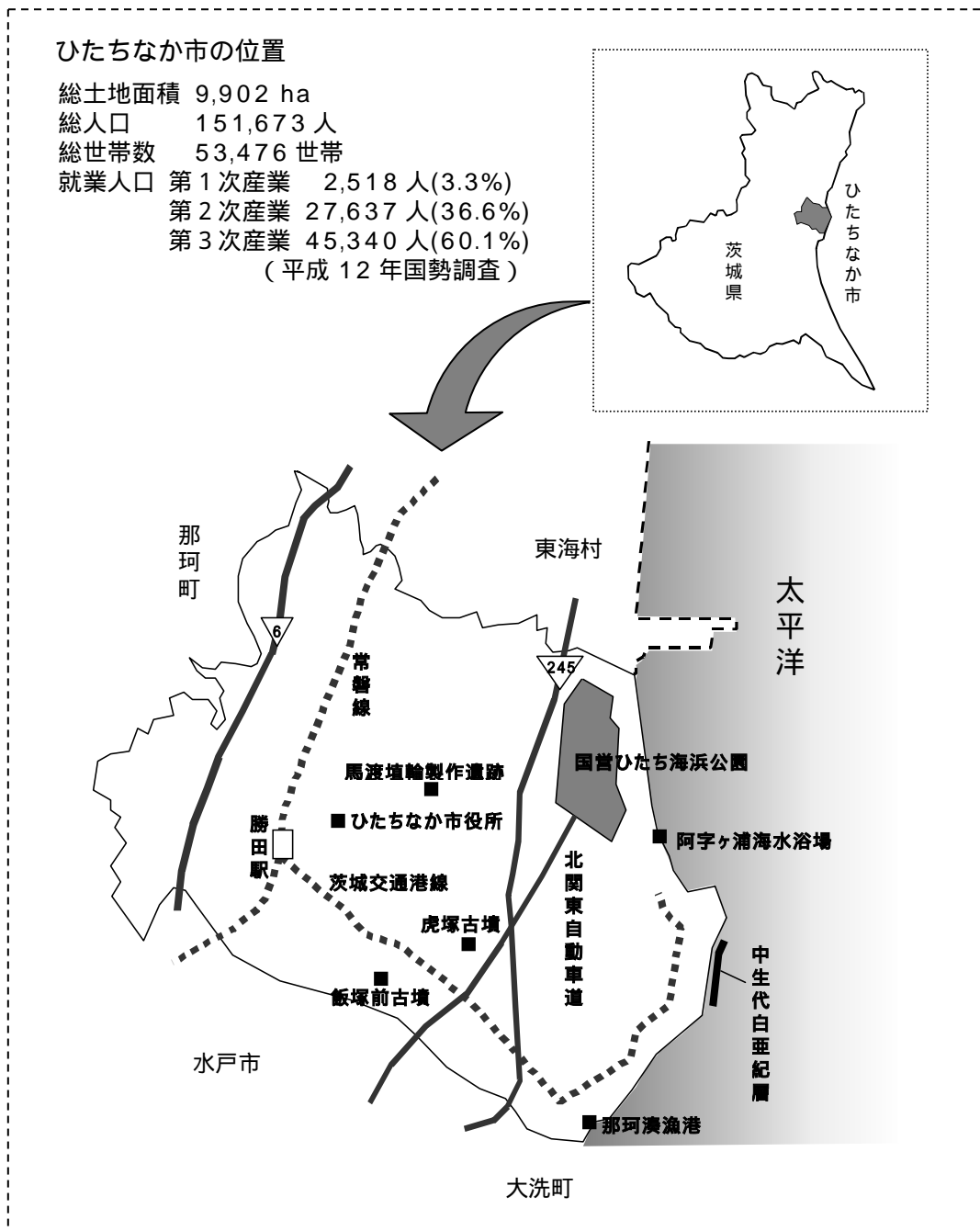


# 4章

## 北部地域（ひたちなか市）での取り組み

4 - 1

### 北部地域の概要



## ひたちなか市の主な地域資源

- ・ 県内最大級の規模を持つ那珂湊漁港。年間 100 万人もの人々で賑わう。
- ・ 中生代白亜紀層。約 6,500 万年前の地層で、全国的にも古生代以後の研究にとって貴重な存在となっている。
- ・ 彩色壁画が有名な虎塚古墳（国指定史跡）や馬渡埴輪製作遺跡（国指定史跡）等の古の生活が偲ばれる史跡が存在する。
- ・ 湊御殿の松（市指定天然記念物）、い賓閣跡（市指定史跡）、山上門（市指定有形文化財）、反射炉跡（市指定史跡）、水門帰帆（市指定名勝）等の水戸徳川家ゆかりの史跡が存在する。
- ・ 半世紀の歴史を誇る勝田全国マラソン大会は、全国から 1 万人を超える市民ランナーが参加する。
- ・ ロック・イン・ジャパン・フェスティバル。4 回目の昨年は、参加者の手によるフェスとして、大成功を収めている。
- ・ サーフィンのメッカとして名高いマリニピュアーイン阿字ヶ浦では、サーフィンやボードセーリングの競技大会が行われる。
- ・ 総面積 350ha の国営公園であるひたちなか海浜公園。「海と空と緑が友達 爽やか健康体験」をテーマとして、特色ある自然条件を生かした整備を目指している。

〔中生代白亜紀層〕



4 - 2

北部地域のコミュニティビジネスの現状

北部地域（ひたちなか市）のNPO件数は6件である。茨城県内の市では6番目に多い数となっている。

コミュニティビジネスに対する地域の状況は以下の通りである。

<p>自治体のコミュニティビジネス支援体制</p> <p>地域の新たな担い手としての期待はあるが、支援体制は現状ではほとんどない。</p> <p>有力中間支援型NPOの存在</p> <p>なかなかワーク、茨城NPOセンター commons（水戸市）などが存在する。</p> <p>既存CB団体数</p> <p>現在、6団体のNPOが存在しているが、数は少ない。</p> <p>意欲あるCB予備軍の存在</p> <p>全体の状況は不明である。</p> <p>支援機関の体制</p> <p>那珂湊商工会議所は、なかなかワークを立ち上げた実績がある。</p> <p>地域住民のCBへの理解</p> <p>現状理解されていない。市民の認知度、行政の理解を図る必要がある。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

（平成16年1月現在）

ひたちなか市の主な市民活動団体

NPO法人 生活支援ネットワーク こもれび	NPO法人 なかなかワーク
NPO法人 エコメイトいばらき	NPO法人 チェリー館
NPO法人 グリーンピュア	NPO法人 ふれあいネット会

（平成16年1月現在）

## 4 - 3

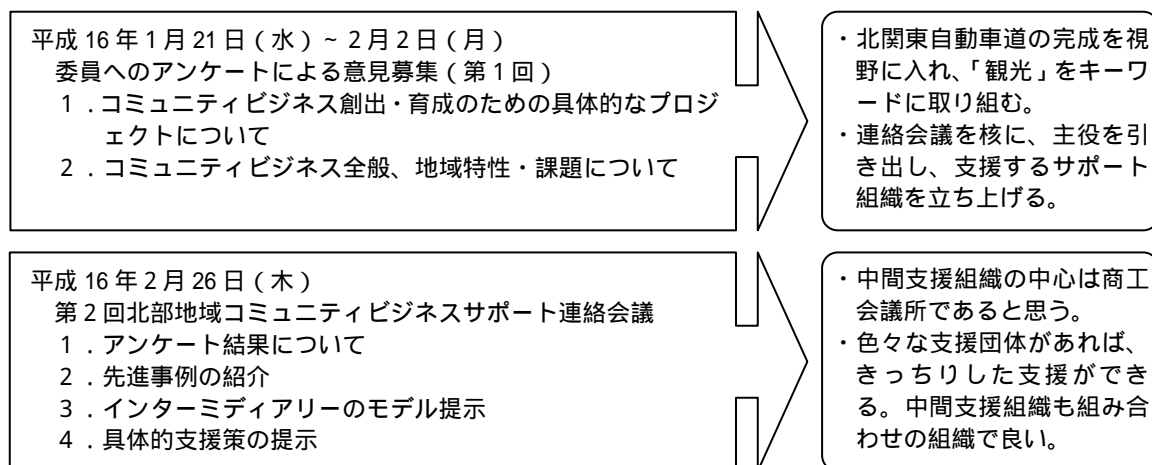
## 北部地域の活動状況

検 討 事 項	主 な 意 見
平成 15 年 12 月 17 日 (水) 北部地域コミュニティビジネスサポート連絡会議準備会 1. 事業概要説明とひたちなか市の地域特性分析 2. 基本計画(ビジョン及びアクション)を決めるための手順の検討 3. コミュニティビジネスサポート連絡会議のメンバー選定 4. 第 1 回コミュニティビジネスサポート連絡会議の日程調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧那珂湊地区だけではなく、旧勝田地区を含めたひたちなか市全体を対象とする。</li> <li>・委員は、勝田商工会議所、那珂湊商工会議所、勝田観光協会、那珂湊観光協会、NPO、マスコミ、金融機関等から構成する。</li> </ul>

## 北部地域コミュニティビジネスサポート連絡会議委員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
照 沼 正 三	勝田商工会議所 専務理事
上 田 毅	那珂湊商工会議所 専務理事
海 野 肇	勝田観光協会 会長
照 沼 勝 男	那珂湊観光協会 会長
永 盛 清	常陽銀行 那珂湊支店 支店長
高 橋 正 樹	茨城新聞社 ひたちなか支局
関 岡 直 樹	NPO法人なかなかワーク コミュニティビジネス部会長
高 島 洋 平	NPO法人なかなかワーク 理事・事務局長
横 田 能 洋	特定非営利活動法人茨城NPOセンター・コモンズ 常務理事
榎 田 美 紀 子	特定非営利活動法人生活支援ネットワーク こもれび 代表理事
大 塚 静 男	まちづくりサポーターズ 代表

平成 16 年 1 月 21 日 (水) 第 1 回北部地域コミュニティビジネスサポート連絡会議 1. コミュニティビジネスについて (1) コミュニティビジネスとは (2) コミュニティビジネス創出育成プログラムについて 2. コミュニティビジネス創出育成基本計画について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来型観光と違う「生活ふるさと」の概念を打ち出したい。海の幸、山の幸地域とのふれあいなど都会にない生活を段階的に(個人のライフステージに合わせて)提供する。</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



コミュニティビジネスサポート会議による「生活ふるさと」の概念

1. 全体構想

	区分	内容	備考
1	課題	交流人口増加によるビジネス機会の創出	東京住民を念頭
2	解決策	生活ふるさと(第3の故郷) = 新観光の提供	従来観光も肯定
3	方法	田舎的環境を整備する市民参加の活動	行政、企業も活動
4	提供物	故郷に居るような癒しの時間、空間 自然に密着した人間育成の場、環境	物産。環境。 五感刺激の提供。

2. 方法の具体的内容

2-1 ソフト的

- (1) 生活ふるさと(第3の故郷)の考え方の周知、支持向上。
- (2) 生活ふるさと(第3の故郷)的物産の情報収集、体制整備。
- (3) 自然観察授業の充実  
(観察して、感受性を高め、勤が働く = 3つの鐘が鳴る人間に育てる)
- (4) 遠足の復活。散歩人口の増加。
- (5) イベントの企画。

2-2 ハード的

- (1) 『市立中央公園』(虎塚古墳の台地を中心に谷地の自然を活用)の建設。
- (2) 伝統家屋保存地域の指定と、宿泊可能な日本家屋の移築。
- (3) 自然を生かしつつ、花木などを植栽し、より快適な環境を整備。
- (4) 本案に適した新規あるいは既存の宿泊施設の充実。

3. 実現の方法

3-1 既存組織の活用

- (1) 行政を中心として、『市立中央公園』案の実現を検討、実施する。
- (2) 商工会議所、観光協会を中心として、本案とその発展形態を検討する。

(3) 小学校有志による自然観察授業充実チーム、遠足の復活チームの発足。

3-2 ボランティア NPO 団体の活用

(1) ふるさとの物産情報の収集、情報提供ならびに案内団体の設置。

3-3 統括支援組織(プラットフォーム)の設置

多岐にわたるチームを育成、活動させるために、それを統括する組織を設置する。

(加えて、安価で集まりやすいミーティングの会場が欲しい)

平成 16 年 2 月 26 日(木) ~ 3 月 8 日(月)

委員へのアンケートによる意見募集(第 2 回)

1. コミュニティビジネス創出・育成のための事業として平成 16 年度以降にやるべきだと思うこと
2. コミュニティビジネス活動活発化のために、自分の組織で対応できること

- ・中間支援活動の拠点の確保
- ・「なかなかワーク」は、中間支援組織の実践的な活動支援に携わりたい。
- ・「生活支援ネットワークこもれび」は、各種活動に協力したい。

平成 16 年 3 月 19 日(金)

第 3 回北部地域コミュニティビジネスサポート連絡会議

1. アンケート結果について
2. 基本計画素案について

- ・中間支援組織は、各機関のネットワークで構成する。
- ・商工会議所が支援組織をまとめる役割を担う。
- ・「れんげトレインプロジェクト」を実験プロジェクトにしてはどうか。

平成 16 年 3 月 19 日作成

「れんげトレイン (or しあわせうさぎ)」プロジェクト

古きよき時代からのひたちなか市の魅力再発見  
きっと見つかります あなたのこころのふるさと

ひたちなか市にはそれぞれの地域に、古い時代からの魅力がたくさん残っています。わずれかけていた様々なものを求めて、まち全体が動き出します。

このプロジェクトは、地域に暮らすひとたちが、このまちに住んでよかったと思えるまちをつくること、そして産業の活性化、観光の発展、人々のこころの豊かさを求めて、横につながっていくことを目的としたものです。

皆がたすけあって地域のものを大切にしていこうと、それが、『生活ふるさと・ひたちなか』。私たちが夢を語り合いながら臨もうとしている新しい形の、コミュニティビジネスです。

\* 具体的にこんなことを考えてみました。

魅力満載 - 茨城交通那珂湊線と周辺地域を利用して

列車沿線を利用した自然環境づくり

\* 湊線沿線は自然環境に恵まれた地域。

\*沿線に『れんげ地帯』をつくる。自然を愛することや、農作物のための土壌の改良、見る人のこころを豊かにする美しさなど、様々な魅力を兼ね備えています。

\*れんげ畑には自然の生き物、アンゴラウサギの飼育。これは動物を愛するこころの豊かさを子供たちの保育やお年寄りの介護の一場面として利用する(ペット療法的なもの)だけでなく、昔から高級素材とされてきた『アンゴラ』を新たな地元の産業としても利用します。

自然環境を利用した『市民のための憩いの場』づくり

\*自然公園

れんげ作り体験

都会からの人たちには民宿とも提携

遊歩道 様々な産物を眺めながら

ふれあい・ウサギ広場(上記)

ふるさと茶屋 地元ならではの味の体験

\*デイホームづくり

沿線に日帰り型、週末型、滞在型等の様々な人が利用できるホーム(家)をつくる。

もちろん介護が必要でもOK。誰でも笑顔で集える温かなホームと特産物を利用した食事の提供。

\*プロジェクト全体の拠点づくり

乗ってみたいくなる列車づくり

\*列車にペイント

列車に沿線地域にマッチしたペイントをする。(住民参加)

れんげ畑、輝く海、ウサギとのふれ愛、水族館等

\*列車内もこんな風だったら

移動図書館、貸しきり列車、SUNDAY列車、外が見やすい回転シート・座席の工夫

\*切符の工夫

100年切符、チャレンジ切符

列車で巡る周辺地域

\*海浜公園までの延長路線

\*大洗、日立地区等への理想的な移動

\*市内周遊路線

列車は車を運転できない人たちにも、出かけることへの喜びを感じることができる可能性を秘めた素敵な乗り物です。

古きよき時代への各駅停車

\*勝田駅から阿字ヶ浦駅までの9つの駅にそれぞれに『忘れかけていたこころのふるさと』がある仕掛けづくりをする。

たとえば、中根駅

虎塚古墳、十五郎穴、広がる田園風景

\*地域独特の『ふるさとの味』の再現

黄門料理、鮭の燻製、干しいも、カツのまち、等  
\*映画やドラマのロケにも使えそうな地域づくり、宣伝。

まだまだアイデアがあるかと思います。大切なことは、私達のふるさとに活着ているものを利用すること、そしてたくさんの方が活着ることです。子供からお年寄りまで様々な地域住民が、また行政や企業や商店街、自治会、子ども会などの地域の組織、新しい NPO などの力がつなげていくことが願いであり、産業の活性化とともにこころ豊かなまちをつくるのが大きな夢です。

平成 16 年 3 月 19 日（金）～ 3 月 26 日（金）  
委員へのアンケートによる意見募集（第 3 回）  
1．基本計画素案について  
2．中間支援組織のあり方について

・中間支援組織は親しみやすさとオープン性が要求される  
・商工会議所と NPO が連携すれば、相互補完型の支援組織ができる。

平成 16 年 3 月 19 日作成

## 北部地域の基本計画（抜粋）

北部地域では、地域で共通のコンセンサスを確立する、地域を盛り上げる仕掛けをつくる、コミュニティビジネスの持つ課題を解消する、という問題を解決するために、以下の基本計画を策定した。

### 1．北部地域のテーマ

コミュニティビジネスの創出・育成は  
「生活ふるさと」をテーマとする

コミュニティビジネスサポート会議から引き出された、ひたちなか市の新たな「売り」である「生活ふるさと」をコミュニティビジネス創出育成のテーマとする。

そのためには、ひたちなか市のもつ地域資源、人材、イベントを活用して、ひたちなか市の PR、情報発信（シティセールス）が必要である。

## 2. 北部地域のコミュニティビジネス創出育成の展開方針

北部地域では、以下の方針に沿ってコミュニティビジネスの創出育成を実施するものとする。

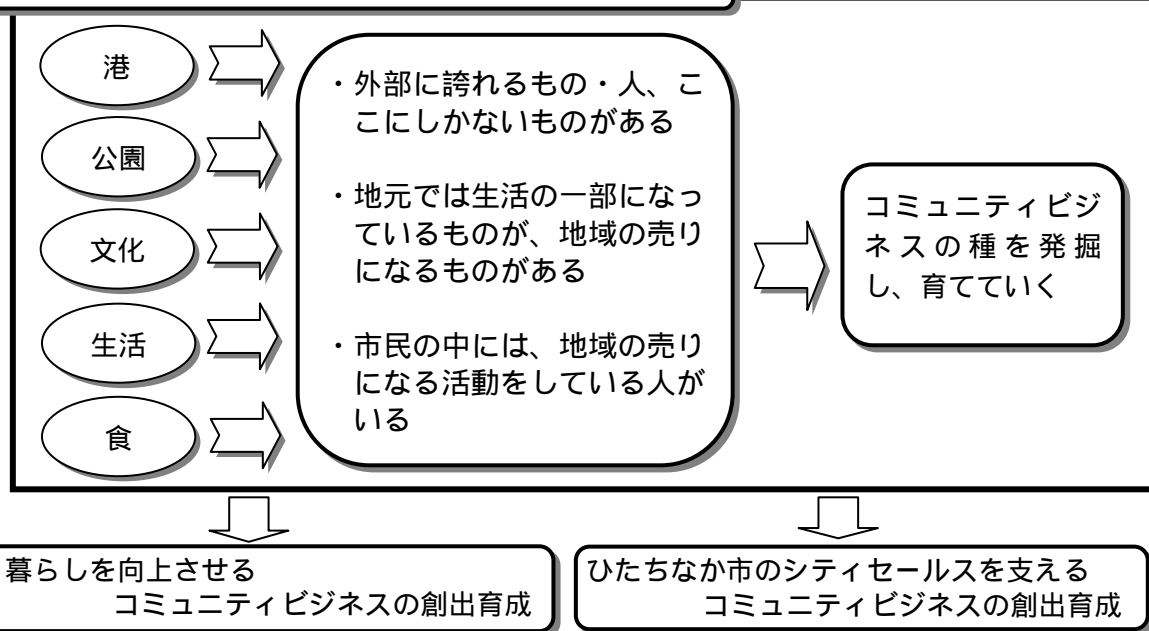
### ひたちなか市の日常生活を「地域の売り」にする

- ・ひたちなか市の日常生活の中に、コミュニティビジネスの種がある。
- ・ひたちなか市のシティセールスを担う観光関連のコミュニティビジネスを育成する。一方で、市民生活のニーズに対応したコミュニティビジネスの創出育成を図る。

### ひたちなか市には、「地域の売り」になるものが多く存在する

- ・ひたちなか市は、自然、伝統的家屋等癒しの時間・空間がある。
- ・ロックフェスティバル、サーフィン等若者が集まる土壌がある。
- ・日立製作所とその系列の大工場が存在し、技術・ノウハウを持つ人材が存在する。
- ・歴史的資源とひたちなか地区開発に代表される未来の資源が共存する地域である。
- ・海、漁港（海産物）、大規模公園など人をひきつける素材がある。

### 生活ふるさとをテーマに創出育成プログラムを実施



### 3. コミュニティビジネス創出育成のための先導プロジェクト

#### (1) コミュニティビジネス創出育成の実行目標（4つのマニフェスト）

コミュニティビジネスの創出育成をより具体化させるため、実行目標（4つのマニフェスト）を以下のように定めた。

- マニフェスト1：市民団体と行政・商工団体・金融機関等との交流を促進します
- マニフェスト2：インターメディアリー（中間支援組織）をつくります
- マニフェスト3：コミュニティビジネスの予備軍を発掘します
- マニフェスト4：ひたちなか市の地域資源の掘り起こしを行います

#### (2) マニフェスト実現に向けた3つの先導プロジェクト

##### 1. 中間支援組織創出プロジェクト

先進事例を見ても、コミュニティビジネス創出・育成のためには中間支援組織や民・産・官が協働する支援組織（プラットフォーム）が有効である。  
複数の支援機関が連携して、それぞれの得意とする分野の支援を行う。

⇒ サポート連絡会議のメンバー（行政含む）を中心としたコミュニティビジネス協議会の立ち上げに向けたワークショップ（研究会）の開催

⇒ コミュニティビジネス支援事務局の整備  
支援団体の連携の事務局（商工会議所を想定）

⇒ コーディネーター・専門家の公募・登録を行い、人材リストを作成する  
⇒ コーディネーター・専門家に対する研修会を開催し、質の向上を図る。

## 2. コミュニティビジネス普及啓発プロジェクト

市民・企業への普及、行政・商工団体等への啓発を行う。

- ⇒
  - ・シンポジウムの開催
  - ・起業化講座の開催
- ⇒
  - ・起業相談の実施（当面は外部専門機関との連携）
- ⇒
  - ・行政と商工団体等とNPO等との意見交換の場の設定
- ⇒
  - ・既存コミュニティビジネスの活動報告・広報（マスコミ、広報誌）
- ⇒
  - ・先進地域との交流会
  - ・先進地域の事例の収集・提供

## 3. コミュニティビジネス育成プロジェクト

シティセールスの担い手になるコミュニティビジネスの育成を図る。

地域課題の解決に向けた人材を育成する。

仲間づくりの支援を行う。

- ⇒
  - ・ひたちなか市コミュニティビジネス交流会の開催  
予備軍がコミュニティビジネスを興すきっかけ作りの場と共に既存団体の会員獲得の場
- ⇒
  - ・コミュニティビジネスホームページの開設
  - ・コミュニティビジネスメーリングリストの開設
- ⇒
  - ・事業計画作成アドバイスの実施
- ⇒
  - ・コミュニティビジネス向け予算措置の準備

4 - 4

北部地域での取り組みから得られた教訓

北部地域において実施した、コミュニティビジネス創出・育成の取り組みから得られた教訓は以下の通りである。

コミュニティビジネス実施者をメンバーに入れる。

- ・肩書き重視より、経験者重視のメンバー構成にする。
- ・コミュニティビジネス経験者の発言は、説得力がある。

様々な分野を取り入れた実験プロジェクト

- ・市民のやりたいことは千差万別である。テーマに沿った幾つかの分野から構成されるプロジェクトを立て上げ、市民に興味ある分野に参加をしてもらう。

北部地域では、茨城交通那珂湊線と周辺地域を利用した実験プロジェクト「れんげ・トレインプロジェクト」を立ち上げて、市民の参加を募ることを検討した。